

2024年8月25日 主日礼拝 聖霊降臨節 第15主日

説教題: 「狭い戸口から入る」

聖書箇所: ルカによる福音書13章18 - 30節 (135頁)

説教者: 秀島牧師 招詞: 讃美歌93 - 1 - 50 交読詩編: 詩編92編1 - 16節 (102頁)

讃美歌: 83/578 (平和を求めよう) 120 (主はわがかいぬし) /495 (しずけき祈りの) /27

「今週の聖句」〔「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。」 (ルカ伝13:24)

「牧師室の窓」 「広島 長崎の鐘 平和告ぐ キーウ・ガザでの 戦争止(や)めよと」

「対立の 国際政治の中なれど 知恵と調和で 主の平和なさむ」

(1)皆様おはようございます。本日は8月最後の主日礼拝です。まだ暑い日々が続いていますが、先週の木曜日(8月22日)には、二十四節気の「処暑(しょしょ)暑さが収まる頃という意味です。その処暑」を迎えました。この暑さももう暫くの辛抱です。教会の暦で言いますと本日は聖霊降臨節第15主日です。今年5月19日の聖霊降臨日(ペンテコステ)から始まりました聖霊降臨節は10月20日の聖霊降臨節第23主日の週まで続きますので、教会の半年と言われる聖霊降臨節は残り2か月間です。私は信徒時代の職業人時代によく言われたこと、叩き込まれたことに一つに、3か月先を見て、3年先を見て仕事をしなさいと言われました。担当している会社の状況を見据えて、その会社の将来に対して、君は何をすべきなのかを考えなさいと言われました。同じことが、服装業界や食品業界などなども、どの様な業界にも言えることです。季節を先取りしてイメージして、人間の成長を先取りしてイメージして行動することが大切なのです。また、不安定な状況の中で生きて行く道をどの様に切り開いて行くのか。もっと身近なことで言えば、来週9月1日は「防災の日」ですから、普段から災害をイメージして準備することが重要です。

今日の聖書箇所は、目に見えない「神の国」を思い描いてみるイメージしてみることの大切さをイエス様は私たちにお話しされようとしています。耳を傾けてみましょう。

(2)まずは今日の聖書箇所の18節~21節を見てみましょう。〔(13:18)そこで、イエスは言われた。「神の国は何に似ているか。何にたとえようか。/(13:19)それは、からし種に似ている。人がこれを取って庭に蒔くと、成長して木になり、その枝には空の鳥が巣を作る。」/(13:20)また言われた。「神の国を何にたとえようか。/(13:21)パン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」〕イエス様は安息日(あんそくび)にユダヤ教の会堂で人々に聖書(私たちが旧約聖書と呼んでいる聖書)の話をしていました。話題は「神の国は何に似ているか。何にたとえようか。」であります。人々には馴染みのない「神の国」ですが、イエス様は「からし種に似ている/パン種に似ている」と突飛な譬えを話されました。「からし種」とは黒唐辛子の種です。香辛料として商品価値があります。種一粒は1mm程と小さいですが、芽が出て成長すると茎の高さは3~4m程の高さになります。ごく小さな種が大きく成長することを人々が身近に感じる事が出来る植物です。

…以前にもお話ししたことがあります。私が神学校の4年の10月でした。神学校から、神学校日礼拝として、山梨県の山あいにある峡南教会で奨励をして欲しいとの申し出がありました。前日の土曜日に電車に乗って山梨県の甲府に行き、電車を身延線に乗り換えて行きました。身延町はご存じの通り日蓮宗の総本山久遠寺のお膝元です。峡南教会に一泊して翌日の主日礼拝でお話をしました。暖かな人たちの教会でした。その教会の庭にはからし種の茎が植えてありました。地面から2階の窓に届く程の高さがありました。聖書の文字を実際に目の当たりにして感動しました。物事を自分の目で見て、手に触れてこそ理解することが出来ます。そしてそのような体験によって想像力を逞しくすることが出来るのです。今日の聖書箇所の22節に〔(13:22)イエスは町

や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた。』と書かれています。イエス様が歩かれた道端の小石や草花はどのような物であったのでしょうか。興味深いですね。

(3)話が脇道にそれましたので、元に戻ります。イエス様は神の国は「(21節)パン種に似ている」と言われました。パン種とは小麦粉に入れる酵母菌です。酵母菌の発酵によりパン生地は香りが付き、焼くとふっくらと柔らかいパンとなります。そのパン種を「三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる」と書かれています。「三サトンの粉」とは聖書のページの後ろに度量衡の換算表があります。1サトンは12.8リットルですから、3サトンは38.4リットルです。重さにすれば38.4kgになります。一握り程の僅かなパン種が38kgものパン生地全体を膨らませる効果があるとイエス様は人々に伝えました。人々もそのことを日常生活の中で良く知っていましたので、イエス様のお話が理解し易かったのです。

では、「からし種」と「パン種」が「神の国」とどのような関係があるのでしょうか。様々な考え方があると思いますが、1つには「神の国は復活が実現するところ」であり、2つには「信仰によって私たちの人生が変えられる、変えられた人生が即ち、神の国に生きること」と考えられます。そのことは、ヨハネ福音書12章24節以下に「一粒の麦は…多くの実を結ぶ」とイエス様の言葉が書かれています。そして、同じヨハネ福音書12章35節以下には「光のうちに歩きなさい」と続いています。私たちは神の国に生きているわけではありません。現実のこの世の中に自分ではどうしようもない状態の中で生きているのです。そうではあっても、「神の国」とは何かを考える自由は与えられています。その自由を投げ捨てるのではなく、「神の国」に生きる一人となることと考えると如何でしょうか。どうしたらよいのでしょうか。それは「信仰」であります。信仰とは何でしょうか。ヘブライ人への手紙11章1節には「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」と書かれています。私たちの人生とは不満足なことの連続ではありますが、「望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認すること」でもあるのです。それこそが「神の国」に生きる喜びであります。

(4)では、「神の国」に入るためには何が必要なのでしょう。そのことが本日の聖書箇所22節～30節に書かれています。小見出しには「狭い戸口」と書かれている箇所です。18節～21節までの「からし種」と「パン種」のたとえの場面とは異なる場面です。22節には「(13:22)イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた。」と書かれています。ルカ福音書を書いている記者はイエス様が十字架への道を歩まれていることをさりげなく読者に伝えているのです。神の国に救われるものとは誰かということはこの聖書箇所はオブラートに包みながら、のちのキリスト教が異邦人に伝えられ異邦人にこそ救いが与えられることを暗に示そうとしています。

早速、23節以下の中身に入ってみましょう。「(13:23)すると、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。イエスは一同に言われた。」「救われる者」とは「神の国」に入れるのか入れないのかという質問です。二者択一の回答を迫る質問、直球を投げ込んできた質問ですね。私たちも物事を二者択一で考える癖があります、染み付いていると言っても良いでしょう。物事を善悪で判断する、○か×かで区分けする、勝つか負けるかで区分けすることに慣れていきます。別の言葉で言えば、自分自身に有利であるか不利であるか、もう少し踏み込んで言えば、自分が得をするか損をするのかという利害関係で物事を判断してしまわないでしょうか。

(5)イエス様の言葉を見てみましょう。24節25節です。「(13:24)「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。/(13:25)家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸をたたき、『御主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返ってくるだけである。]こ

の言葉だけを読みますと、愛の宗教と言われるキリスト教のイエス様は何と冷たい仕打ちをなされるのだろうかと不信感に襲われてしまいそうです。併し、この箇所を文脈をよく見てみますとそうではありません。イエス様のこの言葉はモーセの律法を守っていると自負している、律法を守っていると思い込んでいる律法学者やファリサイ人に対する強い違和感であります。

もう少し深く掘り下げて今日の箇所を読んでみましょう。「狭い戸口から入るように努めなさい」という言葉に似ている言葉がありませんか。そうです。マタイ福音書の7章13節14節に「狭い門より入れ」という箇所があります。〔(7:13)「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。/ (7:13)しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」〕このマタイ福音書の記事は狭い門と広い門の2つ或いは2つ以上の門があり、その中の「狭い門」を選ぶべきと書かれています。その理由はこうであるからと記されているのです。分かり易い選択・選びです。一方、今日の聖書箇所が言っている「狭い戸口」とは幾つかある戸口の中で狭い戸口を探して入ると言うことではありません。戸口そのものが狭い状態となっているのでそのことを良く理解しなさい。従って「狭い戸口から入るように努めなさい」ここには「努めなさい」と書かれています。ギリシャ語の意味を英語に翻訳しますとfight(ファイト)戦いなさい、奮闘しなさい、という意味です。新約聖書のテモテへの手紙I 6章12節(389頁)に〔(6:11)信仰の戦いを立派に戦い抜き、永遠の命を手に入れなさい。命を得るために、あなたは神から召され…〕と書かれている「戦い抜き」がルカ伝13章24節では「努めなさい」ということばに翻訳されているのです。加えて、25節から28節に書かれている様な厳しい言葉には私は付いてはいけなさと感じられるかもしれませんが、今日のこの聖書箇所が言っていることは他者との能力や信仰の大小比較ではありません。自分自身が置かれている立場や環境や能力を生かして、力いっぱい主を愛し、隣人のために生きると言うことに他なりません。

だからこそ、29節にはすべての人が〔(13:29)「東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。」〕のであり、30節〔(13:30)「後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある。」〕ここには、人間の表面的な能力によって区別されることがないこと、神の国が人々を招いていることが記されています。神の愛を信じて人生の日々を過ごして参りましょう。

・・・お祈りいたします。

イエス・キリストの主なる神様、本日は主の日の礼拝に招かれありがとうございます。私たちは主の御言葉によって生かされて人生の日々を過ごしています。感謝いたします。

主の御言葉によって束縛から解放されます様に私たちをお導き下さい。戦争や戦乱がこの地球上に現実に起きています。人間の知恵と勇気と慈しみによって平和が実現します様にお導き下さい。悩みの中にある一人ひとりに主の癒しがあります様に、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

〔**新共同訳**ルカによる福音書(13:18)そこで、イエスは言われた。「神の国は何に似ているか。何にたとえようか。/ (13:19)それは、からし種に似ている。人がこれを取って庭に蒔くと、成長して木になり、その枝には空の鳥が巣を作る。」/ (13:20)また言われた。「神の国を何にたとえようか。/ (13:21)パン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」/ (13:22)イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた。/ (13:23)すると、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。イエスは一同に言

われた。/(13:24)「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。/(13:25)家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸をたたき、『御主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返ってくるだけである。/(12:26)そのとき、あなたがたは、『御一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、わたしたちの広場でお教えを受けたのです』と言いだすだろう。/(13:27)しかし主人は、『お前たちがどこの者か知らない。不義を行う者ども、皆わたしから立ち去れ』と言うだろう。/(13:28)あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されることになり、そこで泣きわめいて歯ぎしりする。/(13:29)そして人々は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。/(13:30)そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある。』)

〔**聖書協会共同訳**ルカによる福音書(13:18)そこで、イエスは言われた。「神の国は何に似ているか。何にたとえようか。/(13:19)それは、からし種に似ている。人がこれを取って庭に蒔くと、成長して木になり、その枝には空の鳥が巣を作る。」/(13:20)また言われた。「神の国を何にたとえようか。/(13:21)パン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨らむ。」/(13:22)イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへと旅を続けられた。/(13:23)すると、「主よ、救われる人は少ないのでしょうか」と言う人がいた。イエスは一同に言われた。/(13:24)「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。/(13:25)家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸を叩き、『ご主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返って来るだけである。/(12:26)その時、あなたがたは、『ご一緒に食べたり飲んだりしましたし、私たちの大通りで教えを受けたのです』と言いだすだろう。/(13:27)しかし主人は、『お前たちがどこの者か知らない。不正を働く者ども、皆私から離れよ』と言うだろう。/(13:28)あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されているのを見て、そこで泣きわめいて歯ぎしりする。/(13:29)そして人々は、東から西から、また北から南から来て、神の国で宴会の席に着く。/(13:30)そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある。』)

〔**口語訳**ルカによる福音書(13:18)そこで言われた、「神の国は何に似ているか。またそれを何にたとえようか。/(13:19)一粒のからし種のようなものである。ある人がそれを取って庭にまくと、育って木となり、空の鳥もその枝に宿るようになる」。/(13:20)また言われた、「神の国を何にたとえようか。/(13:21)また言われた、「神の国を何にたとえようか。/(13:22)さてイエスは教えながら町々村々を通り過ぎ、エルサレムへと旅を続けられた。/(13:23)すると、ある人がイエスに、「主よ、救われる人は少ないのですか」と尋ねた。/(13:24)そこでイエスは人々にむかって言われた、「狭い戸口からはいるように努めなさい。事実、はいろうとしても、はいれない人が多いのだから。/(13:25)家の主人が立って戸を閉じてしまってから、あなたがたが外に立ち戸をたたき始めて、『ご主人様、どうぞあけてください』と言っても、主人はそれに答えて、『あなたがたがどこからきた人なのか、わたしは知らない』と言うであろう。/(12:16)そのとき、『わたしたちはあなたとご一緒に飲み食いしました。また、あなたはわたしたちの大通りで教えてくださいました』と言い出しても、/(13:27)彼は、『あなたがたがどこからきた人なのか、わたしは知らない。悪事を働く者どもよ、みんな行ってしまえ』と言うであろう。/(13:28)あなたがた

2024.8.25南板橋教会 主日礼拝『狭い戸口から入る』（ルカ伝13:18-30）

は、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが、神の国にはいつているのに、自分たちは外に投げ出されることになれば、そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。/(13:29)それから人々が、東から西から、また南から北からきて、神の国で宴会の席につくであろう。/(13:30)こうしてあとのもので先になるものがあり、また、先のものであとになるものもある」。〕